

東風 HARUKAZE

令和3年4月30日発行

めざしているのは「顔見知りの関係」

高潔性・公益性

地域の皆様からお声を頂いて



ある休日の朝、開校以来様々にご支援をいただいている地域の方が花壇の整備をされてありました。御礼を申し上げるために車を降りると、「生徒さんが登下校の時に明るく挨拶をしてくれるので、いつも元気をもらっています。近くに学校ができて本当によかった。」と伝えてくださいました。

別の日は、部活動の完全下校の指導をしていると、犬の散歩をされている地域の方が西原主幹を呼び止められ、「下校中に部活動の生徒がいつも元気に挨拶をしてくれます。素晴らしいですね。」と伝えてくださいました。さらに別の日は、学校に匿名の電話があり、「生徒の皆さんが、あまりにも気持ちのよい挨拶をしてくれるので、お知らせしたくて電話をしました。」とお話してくださいました。

本校は防災・減災を大切にしている学校で、地域防災力を高めるために、笑顔の挨拶の輪を広げ「顔見知りの関係」をつくることをめざしています。上の三つの出来事を学校にお伝えいただいた地域の皆様に心より感謝申し上げます。我が子のように、我が孫のように生徒を慮（おもんばか）ってくださいているからお知らせいただいたのだと思っています。

一方で、「下校中の道路の渡り方がよくないです」「大勢で大声で話をしながら帰ってうるさいです」などのお声を頂いているのも紛れもない事実です。このようにお知らせいただいているのも地域の学校に何らかの期待を抱いてあるからだと思えます。匿名のお電話ですがとてもありがたいことであると職員には話しています。

ぜひ、たくさんのお声を学校に届けていただければと考えております。

保護者の皆様、地域の皆様、そして教職員が、パートナーシップの関係性を構築し、「地域の子どもをみんなで育てていく」ことが何より大切な時代であります。本来であれば、多くの皆様に5月22日（土）の体育会を通じて、子どもの育ちを見ていただきたいのですが、本年度も現在のところ3学年の保護者1名の参観となっております。登下校や休日の生徒の姿をお知らせいただけましたら幸いです。



4月30日（金）朝の挨拶の様子

やり抜く力 [GRIT] を育む課外活動

Guts（困難なことに立ち向かう） **Resilience**（失敗しても諦めずに続ける） **Initiative**（自分で目標を見据える） **Tenacity**（最後までやり遂げる）の頭文字を使って、**GRIT**と表現しています。

2013年のTED、2016年の著書『やり抜く力』で、ペンシルバニア大学教授 アンジェラ・リー・ダックワース氏（心理学者）が提唱している、社会的に成功している人が共通してもつ「やり抜く力・粘る力」等の資質・能力のことをいい、近年、教育界や経済界で注目されています。

『社会的な成功は、才能や素質、スキルの高さは関係ない。失敗しても粘り強く黙々と課題に取り組み、最後までやり遂げることが何より大切である。勉強は、意義はあるが大変な活動、ゲームやSNSは、楽しいが意義のあまりない活動である。部活動・社会体育・ボランティア活動などの課外活動は「大変だけど楽しい」活動である。この課外活動を複数年やり続けることは、「やり抜く力」が高いことの証であるとともに、「やり抜く力」を鍛えることにつながる』と著書で唱えています。

まずは我々教職員が、粘り強く取り組み、ひとつひとつやり遂げなければならないと思いました。